

ISSN 0912-778X

# 穂別町立博物館館報

第15号

平成9 (1997) 年度

穂別町立博物館

## 目 次

- 沿 設 革 .....(p.1)
- 施 設 の 概 要 .....(p.4)
- 施 設 平 面 図 .....(p.4)
- 展 示 活 動 .....(p.5)
- 収 蔵 資 料 概 要 .....(p.6)
- 資 料 収 集 保 存 活 動 .....(p.6)
- 調 査 研 究 活 動 .....(p.8)
- 普 及 教 育 活 動 .....(p.10)
- 運 営 .....(p.12)

「この博物館は、国の公立社会教育施設整備事業及び北海道市町村振興事業の補助を受け建設されたものである。」

穂別町立博物館は昭和50(1975)年の長頸竜「ホベツアラキリュウ」標本の発見がきっかけとなって建設された。当初は「穂別町郷土資料館」として計画され、建設計画中に「穂別町立博物館」として名称変更された。名称変更後の館活動は「本町で発見される化石(自然史)」の研究・保存・普及と「町の歴史(人文)」の保存・普及を行う二面性を備えた総合博物館としてのものであった。

その後、約10年にわたる博物館活動の結果蓄積された自然史資料の重要性と、人文系資料の保存活動に要する作業量にアンバランスを生じ、活動方針の変更が行われた。その基本活動方針は、「穂別地域で産出する古生物(化石)を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」である。その後現在にいたるが、ここではその経緯を記録し、今後の活動の充実と強化につとめていきたい。

## I 「建設の目的」と「展示更新」の基本的考え方

### 〈穂別町郷土資料館建設の目的〉

(昭和55(1980)年11月26日)

『本町は、クビナガリュウをはじめデスモスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開町70年(町制施行20年)を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

### 〈展示更新の基本的考え方〉

(平成2(1990)年6月27日)

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物として見た場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわり、模型は「生きていたと

きの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系としての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の1頁1頁であることを理解させる博物館とする。』

## II 沿革

昭和50(1975)年6月

穂別町字長和において、脊椎動物化石の入った母岩を発見、一部採集。発見者：荒木新太郎氏(穂別町在住)。

昭和51(1976)年9月

佐藤昌人指導員(苫小牧青少年センター)・佐藤隆久教諭(穂別町立仁和小学校)、荒木氏発見の化石を長谷川善和主任研究員(国立科学博物館)に鑑定依頼。

昭和52(1977)年2月

長谷川主任研究員の鑑定結果が新聞で報道。白亜紀海棲爬虫類の鱗の一部と確認。

昭和52(1977)年7月5~8日

「穂別町首長竜化石発掘調査団」結成、発掘調査。後に、この標本を「ホベツアラキリュウ」標本と命名。

- 昭和53(1978)年5月  
「ホバツアラキリュウ」標本のクリーニング  
(剖出)作業開始。
- 昭和53(1978)年11月  
穂別町立郷土資料館、開館(旧・穂別町立さくら  
保育所施設利用)。
- 昭和54(1979)年5月  
長頸竜化石骨、穂別町指定文化財第2号に指定。
- 昭和55(1980)年10月16日  
「穂別町郷土資料館建設計画検討委員会」発足。
- 昭和56(1981)年3月13日  
施設の名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博  
物館に変更。
- 昭和56(1981)年7月～12月  
博物館建設工事。
- 昭和56(1981)年9月1日  
鈴木 茂学芸員就任。
- 昭和57(1982)年1月16日  
長頸竜復元作業開始。
- 昭和57(1982)年3月～6月  
博物館展示工事行われる。
- 昭和57(1982)年7月20日  
博物館開館。一般公開開始(初代館長：今幸太  
郎教育長兼任)。
- 昭和57(1982)年8月26日  
「博物館協議会」発足。
- 昭和57(1982)年11月1日  
北海道博物館協会加入。
- 昭和57(1982)年12月19日  
長頸竜復元骨格展示公開。
- 昭和57(1982)年12月19日  
特別展「よみがえるクビナガリュウ」開催。
- 昭和58(1983)年3月2日  
博物館法による登録博物館となる(北博登第28  
号)。
- 昭和58(1983)年3月28日  
「博物館協力会」設立。
- 昭和58(1983)年4月1日  
日本博物館協会加入。
- 昭和58(1983)年4月28日  
菅原康次(第二代)館長就任。
- 昭和58(1983)年7月22日～8月7日  
収蔵資料展「地図展」開催。
- 昭和58(1983)年8月1日  
全国科学博物館協議会加入。
- 昭和59(1984)年2月  
村上隆著「よみがえるクビナガリュウ」発刊。
- 昭和59(1984)年3月27日  
「穂別町立博物館研究報告」刊行開始。
- 昭和59(1984)年6月14日  
第二展示室(町立博物館保存庫)完成。
- 昭和59(1984)年11月1日～4日  
収蔵資料展「古い写真・古い文書展」開催。
- 昭和59(1984)年12月1日  
桜庭勝美(第三代)館長就任。
- 昭和60(1985)年3月30日  
「穂別町立博物館館報」刊行開始。
- 昭和60(1985)年5月1日  
地徳 力学芸員就任。
- 昭和60(1985)年11月1日  
特別展「北海道一億年」開催。
- 昭和61(1986)年10月21日  
特別展「穂別の自然」開催。
- 昭和62(1987)年1月1日  
今幸太郎(第四代)館長就任(教育長兼任)。
- 昭和62(1987)年7月28日  
特別展「アンモナイトの系図」開催。

昭和63(1988)年7月17日

第三展示室(保存庫)完成。

昭和63(1988)年8月23日

特別展「穂別のカメ化石」開催。

昭和63(1988)年10月6日

今 幸太郎(第五代)館長就任(専任)。

平成元(1989)年6月30日

仲谷 英夫氏(香川大学助教授):長頸竜ホベツアラキリュウ標本の記載論文公表。

平成元(1989)年7月18日

特別展「穂別のむかし」開催。

平成元(1989)年9月29日~10月6日

学芸員, カナダ・アルバータ州ティール古生物学博物館に派遣。

平成2(1990)年7月23日

ドラムヘラー市長夫妻(カナダ, アルバータ州)来館。

平成2(1990)年8月18日

特別展「戦争と穂別」開催。

平成2(1990)年9月3日~5日

レイド, M. G. 氏(アルバータ州ティール古生物学博物館)来館。

平成2(1990)年12月31日

野田藤雄(第六代)館長就任(教育長兼任)。

平成3(1991)年4月1日

佐藤 稔(第七代)館長就任。

平成3(1991)年4月28日, 29日	入館者10万人突破記念事業。
平成4(1992)年2月1日	展示更新工事開始。
平成4(1992)年4月23日~25日	カリー, P. J. 氏(アルバータ州ティール古生物学博物館)来館。
平成4(1992)年4月29日	展示更新完了, 一般公開再開。
平成6(1994)年4月1日	野田藤雄(第八代)館長就任(教育長兼任)。
平成6(1994)年4月1日	川上源太郎学芸員就任。
平成7(1995)年7月15日~9月12日	学芸員, カナダ・アルバータ州ティール古生物学博物館に派遣, 研修。
平成8(1996)年7月27日~28日	'96北海道化石サミット開催(穂別町民センター)。
平成8(1996)年10月6日	大江美津夫(第九代)館長就任。
平成9(1997)年7月6日, 7月10日~8月31日	クビナガリュウ発掘20周年記念事業パネル展。

\* 本年表において「長頸竜」・「首長竜」・「クビナガリュウ」あるいは「ホベツアラキリュウ」などの使い分けを行っているが、以下に従っている。

- ・「長頸竜」: 動物分類上の suborder PLESIOSAURIA の和訳として用いている。「蛇頸竜亜目」または「長頸竜亜目」が正式。
- ・「首長竜」: 分類学上の名称としては適切ではないが、この場合「発掘調査団」の固有名称として使用。
- ・「クビナガリュウ」: 正式には「蛇頸竜目」または「長頸竜目」あるいはそのカタカナ綴りにするべきであるが、通俗名として普及しているために本の題名として用いられたのであるから、この場合固有名称として使用。
- ・「ホベツアラキリュウ」: 昭和52(1977)年7月5~8日に「穂別町首長竜化石発掘調査団」によって発掘された標本の名称。

## ●施設の概要

### 【位置】

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

### 【工期】

昭和56年度～57年度

### 【構造規模】

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建

建築面積：1,100m<sup>2</sup>

### 【総事業費】

3億7,276万5,000円

### 【展示更新】

平成3年度～平成4年度：博物館展示替え工事。

平成5年度：マルチスライド、イメージソフト制作。

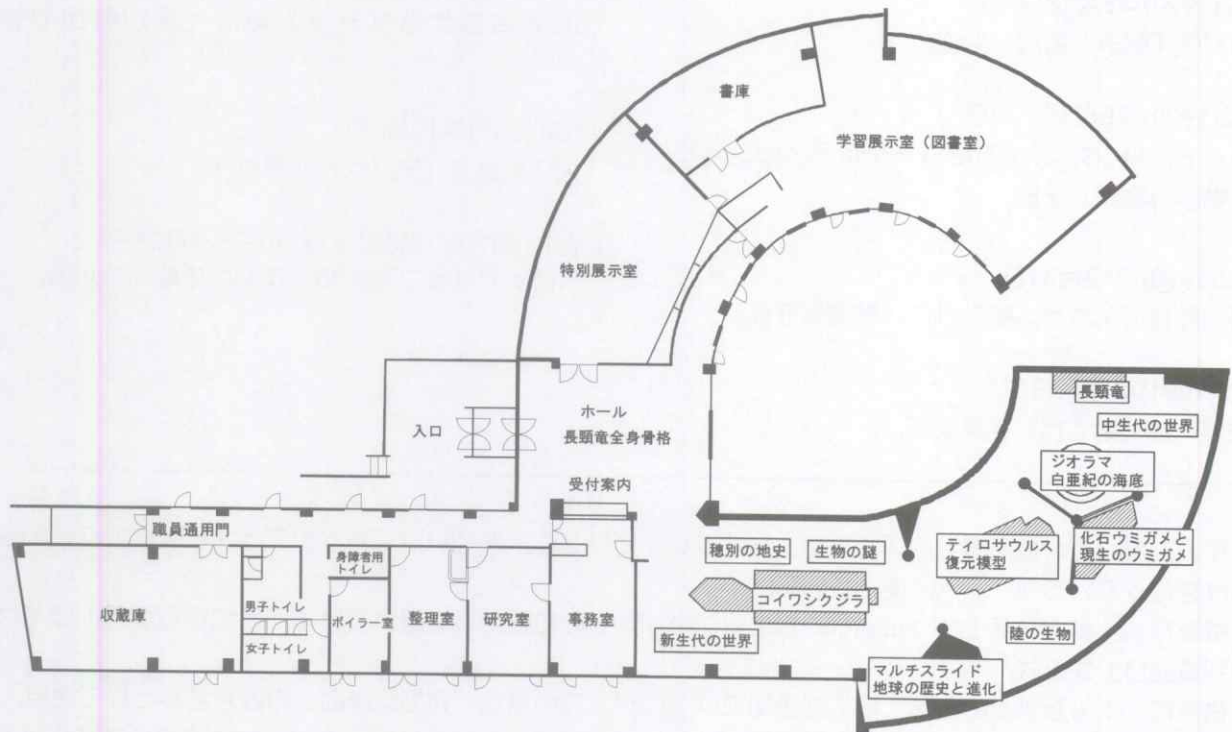
### 【更新事業費】

平成3年度～4年度：99,910,000円（内消費税2,910,000円）

平成5年度：6,890,700円（内消費税 200,700円）

常設展示室	372.88m <sup>2</sup>
特別展示室	99.08m <sup>2</sup>
収蔵庫	86.56m <sup>2</sup>
事務室	40.50m <sup>2</sup>
研究室	31.50m <sup>2</sup>
整理室	29.92m <sup>2</sup>
学習展示室	184.75m <sup>2</sup>
書庫	35.05m <sup>2</sup>
共用部門	219.76m <sup>2</sup>

## ●施設平面図



## ●展示活動

### I 特別展示

クピナガリュウ発掘20周年記念事業パネル展 平成9年7月6日(日), 7月10日(木)~8月31日(日)

### II 常設展示

#### 【学校週5日制関連事業】

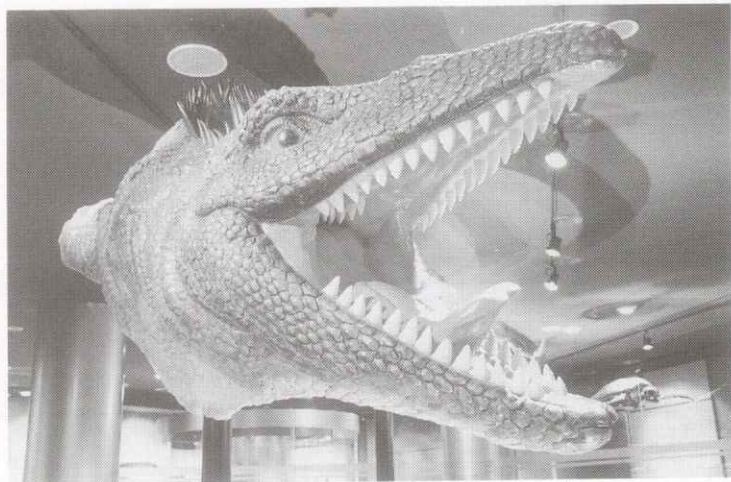
学校週5日制実施にあわせて町民無料観覧を実施。毎月第二・第四土曜日を町内の児童生徒無料観覧の日とする。

#### 【博物館開館記念日関連事業】

7月20日の開館記念日に関連して、平成9(1997)年7月20日(土)~7月26日(土)を町民無料観覧の日とした。

#### 【常設展示資料】

長頸竜化石	11点
モササウルス	7点
カメ化石	9点
魚竜化石	1点
魚類化石	7点
頭足類化石	86点
巻貝化石	27点
二枚貝化石	40点
掘足類化石	3点
甲殻類化石	9点
ウニの化石	5点
クジラの化石	8点
デスモチルスの化石	4点
マンモスの化石	1点
植物化石	2点
霊長類化石	7点
岩石その他	27点
計	254点



#### 【博物館特定入館日に伴う町民無料入館者利用状況調べ】

実施日	行事名	一般	小・中・高生	計
'97.4.1~'98.3.31	学校週5日制(年23回実施)	2	35	37
7.20~26	博物館開館記念日(7日間)	27	2	29
9.15	敬老の日	20	9	29
11.3	文化の日	11	0	11
11.23	勤労感謝の日	8	4	12
1.15	成人の日	6	6	12
計	延べ34日	74	56	130

(単位：人)

●収蔵資料概要

【自然史系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	181	2	18	201
処理中	0	0	0	0
貸出中	10	0	0	10
収蔵庫	841	4	6	851
計	1,032	6	24	1,062

【人文系資料】

収蔵場所	資料数
常設展示室	0
収蔵庫	3,581
貸出中	10
計	3,591

(いずれも1998.3.31.現在, 未登録資料は除く)

【自然系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	1	0	0	1
貸出	22	0	0	22
収蔵庫	31	23	0	54
計	54	23	0	77

●資料収集保存活動

平成9(1997)年4月1日～平成10(1998)年3月31日の  
寄贈・採集資料を順に記した。(敬称略)

I 寄 贈

【自然史系資料】 12件

アンモナイト	15点	阿部利春
アンモナイト	2点	真田健次・ 野田雅之
アンモナイト/腕足貝	20点	千歳化石会
魚化石/アンモナイト	2点	笠巻袈裟男・ 千歳化石会
ノジュール	1点	笠巻袈裟男
貝化石	1点	安藤寿男
アンモナイト/ ウミユリ	1点	千歳化石会
脊椎動物化石他ノ ジュール	33点	博物館協力会
アンモナイト/サンゴ	2点	千歳化石会
イノセラムス/ 植物化石	4点	千歳化石会
植物化石	2点	千歳化石会
アンモナイト他	28点	阿部利春

【自然系資料】 4件

キクイタダキ	1点	大田賢治
巻貝	2点	渋谷直憲

巻貝/二枚貝	5点	地徳真理恵
カメ(マタマタ・ ヒメウミガメ)	2点	山田和彦

【人文系資料その他】 3件

硫黄島の海浜礫		千歳化石会 (小林一秀)
土器/石器	8点	鈴木直三郎
土器/石器	4点	佐々木賢二

II 採 集

【自然・自然史系資料】\*主なもののみ

04/01	鷗川	現生貝類/甲殻類
04/15	稲里	アンモナイト
04/22	稲里	ノジュール
04/30	長和	ノジュール
05/03	富内	球果の化石
05/15	長和	ノジュール
06/10	長和	ノジュール
08/03	稲里	二枚貝/アンモナイト
08/04	稲里	巨大イノセラムス
08/08	稲里	ノジュール
09/05	福山	脊椎動物化石
10/16	稲里	貝化石
10/17	稲里	イノセラムス
10/23	稲里	アンモナイト



10/24	富内	アンモナイト
10/24	稲里	アンモナイト
10/26	稲里	アンモナイト
11/05	長和	アンモナイト

### Ⅲ 資料の貸出

平成8(1996)年5月11日～平成9(1997)年8月31日

ウミガメ化石：帝京平成大学平山 廉博士，3点

平成8(1996)年8月1日～平成9(1997)年8月31日

ウミガメ化石：帝京平成大学平山 廉博士，5点

平成9(1997)年4月1日～平成10(1998)年3月31日

アンモナイト・イノセラムス：穂別地球体験館，  
2点

平成9(1997)年4月1日～平成10(1998)年3月31日

人文系資料：みどりと文芸の館（富内），6点

平成9(1997)年4月1日～平成10(1998)年3月31日

自然系資料（剥製）：穂別町立穂別小学校，20  
点

平成9(1997)年6月18日～9月9日

クビナガリュウ全身復元模型，モササウルス鱗化石，オサガメ化石：北海道開拓記念館第44回特別展「クビナガリュウからステラーカイギュウ化石に見る世界の海」にて展示

平成9(1997)年6月27日～平成10(1998)年6月26日

アンモナイト化石：工業技術院地質調査所利光誠一博士，2点

平成9(1997)年7月25日～10月31日

植物化石：三笠市立博物館，7点

平成9(1997)年9月3日～9月16日

クビナガリュウ全身復元模型：'97北海道化石サミット記念特別展にて展示

平成9(1997)年9月5日～9月6日

人文系資料：第14回ウタリ碑前祭にて使用，15  
点

平成9(1997)年10月1日～平成10(1998)年3月31日

甲殻類の化石：千葉県立中央博物館加藤久佳学芸員，2点

I 脊椎動物化石の研究

【総論】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 元穂別町立博物館学芸員)  
公表論文・講演:  
[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 47-52.

地徳 力(穂別町立博物館学芸員)  
公表論文・講演:  
[1990] 穂別町立博物館研究報告, [6], 37-35.  
[1993] 日本地質学会第100年学術大会(東京)夜間小集会口頭発表  
[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)一般発表  
[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)夜間小集会口頭発表

【デスモスチルス】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託  
公表論文・講演:  
[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 11-23.  
[1984] 地団研専報, [28], 51-61. (松井 愈・山口昇一 共著)  
[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 51-62.

赤松守雄(北海道開拓記念館)学芸員に研究委託  
公表論文・講演:  
[1984] 地団研専報, [28], 63-68.

【クジラ】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託  
  
一島啓人(オタゴ大学)氏に研究委託  
公表論文・講演:  
[1992] 穂別町立博物館研究報告, [9], 37-44.  
[1994] The Island Arc, [3], 473-485.  
[1994] The island Arc, [3], 486-492.

【ウミガメ】

平山 廉(帝京平成大学)講師に研究委託  
公表論文・講演:  
[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 17-30. (鈴木 茂 共著)  
[1992] 穂別町立博物館研究報告, [8], 17-57.

[1992] 日本地質学会第99年学術大会(熊本)口頭発表

[1994] 地団研専報, [43], 17-24. (地徳 力 共著)

[1994] The Island Arc, [43], 270-284.

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)口頭発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)夜間小集会口頭発表

[1995] 日本地質学会第102年学術大会(広島)口頭発表

[1996] 日本古生物学会報告・紀事, [184], 597-622. (地徳 力 共著)

【リクガメ】

平山 廉(帝京平成大学)講師に研究委託  
公表論文・講演:

[1998] 穂別町立博物館研究報告, [14], . (紀藤典夫・川上源太郎 共著)

【長頸竜】

仲谷英夫(香川大学)助教授に研究委託  
公表論文・講演:

[1981] 日本地質学会第88年学術大会(東京)口頭発表

[1982] 日本地質学会第89年学術大会(新潟)口頭発表

[1982] 動物と自然, 12, 11-16.

[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 37-40.

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 43-49.

[1989] 穂別町立博物館研究報告, [5], 43-48.

[1989] 日本古生物学会報告・記事, [154], 96-116.

【モササウルス】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 元穂別町立博物館学芸員)氏が研究  
公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 31-42.

[1985] 地学団体研究会専報, [30], 45-66.

地徳 力(穂別町立博物館学芸員)が別資料の研究継続

公表論文・講演:

[1987] 日本地質学会第94年学術大会(大阪)口頭

発表

- [1990] 日本地質学会第97年学術大会(富山)口頭発表  
[1990] 日本地質学会北海道支部報, [1], 45-46  
[1991] 穂別町立博物館研究報告, [7], 9-14. (紀藤典夫 共著)  
[1994] 穂別町立博物館研究報告, [10], 39-54.

【サメ】

- 久家直之氏(ジオサイエンス株式会社)に研究委託  
公表論文・講演：  
[1985] 穂別町立博物館研究報告, [1], 33-36.

【翼竜】

- 地徳 力(穂別町立博物館学芸員)  
公表論文・講演：  
[1994] 日本地質学会北海道支部総会講演  
[1996] 穂別町立博物館研究報告, [12], 17-22.

## II 刊 行 物

【穂別町立博物館館報】

第14号, 14頁：平成9(1997)年7月30日発行

【穂別町立博物館研究報告】

第13号, 64頁：平成10(1998)年3月30日発行

<著者及び論文題名>

木村方一・広田清治・清野智佳子：1-7頁  
北海道羽幌町の中期中新統から産出した鱗脚類下顎骨化石について

古江良治・新井田清信・加藤孝幸：9-26頁  
神居古潭帯のオフィオライト質クロミタイトの成因

川上源太郎：27-42頁  
北海道穂別地域に分布する、中新世堆積岩類の岩相と堆積環境

地徳 力：43-68頁  
穂別町立博物館に寄贈された佐々保雄名誉教授一括資料について(概報)

## III 参加学会・博物館協会研修会

平成9(1997)年10月9～10月3日：日本地質学会第104年学術大会(福岡)

平成9(1997)年9月24～26日：北海道博物館協会・学芸職員部会研修会(ふるる函館 函館市青少年研修センター／市立函館博物館)

平成10(1998)年2月20日：日胆博・学芸研修会(二部谷アイヌ文化博物館)

## ●普及教育活動

### I 博物館講座

#### 【自然観察会】

実行事業無し。

#### 【化石クリーニング教室】

学校その他の団体で要望があった際に、随時開講とした（Ⅲ その他を参照のこと）。

### II ホッピーだより（博物館広報）

#### 【内容】

149号（平成9(1997)年4月）

「寄贈資料の紹介」

150号（平成9(1997)年5月）

「本の紹介—地質学・古生物学を学ぶ—」

151号（平成9(1997)年6月）

「白亜紀のオサガメ化石—新属・新種として記載される！—」

152号（平成9(1997)年7月）

「6500万年前の花粉—恐竜滅亡の手がかり—」

153号（平成9(1997)年8月）

「～松井孝典先生 穂別マザーズフォレスト賞受賞記念講演から～」

154号（平成9(1997)年9月）

「日本ヘクマが来た道（門崎，1996）—交換資料から—」

155号（平成9(1997)年10月）

「オショロ層について—最近の調査から—」

156号（平成9(1997)年11月）

「ゴビの恐竜—地質学雑誌から—」

157号（平成9(1997)年12月）

「地層の年代を知る—放射年代測定法—」

158号（平成10(1998)年1月）

「トラの話」

159号（平成10(1998)年2月）

「博物館の活用法—交換資料を活用する—」

160号（平成10(1998)年3月）

「穂別の地形—地形図を見よう—」

### III その他

#### 【穂別町新任教職員町内研修】

平成9(1997)年6月19日：穂別町新任教職員（12名）館内研修

#### 【ホベツアラキリュウ発掘20周年記念特別講演】

平成9(1997)年7月6日：「化石の里穂別の夢」仲谷英夫(香川大学)博士講演

#### 【信州大学学生巡検：展示解説】

平成9(1997)年7月11日：（36名）

#### 【小学生夏休み博物館宿泊体験学習】

平成9(1997)年8月8～9日：（12名）

#### 【高等学校新任教師研修】

平成9(1997)年7月9日：（4名）

#### 【ユウバリコザクラの会巡検案内】

平成9(1997)年7月11日

#### 【普及講演会】

平成9(1997)年8月24日：「龍（ドラゴン）の海から」

開拓記念館第44回特別展「クビナガリュウからステラーカイギュウ化石に見る世界の海」にて特別講演

#### 【穂別町教育研究会理科サークル】

平成9(1997)年9月2日：クリーニング実習／館内見学（6名）

#### 【穂別町教育研究会社会科サークル】

平成9(1997)年9月2日：館内見学（4名）

#### 【日高管内理科教育研究会 実技講習会】

平成9(1997)年10月29日：クリーニング実習／  
館内見学（23名）

【千歳化石会講演会】

平成9(1997)年11月30日：「穂別ダム周辺の地  
質—中新統基底の不整合について」

【社会科課外授業指導】

平成9(1997)年2月4日：穂別小学校3年生収蔵庫  
見学（27名）

【町内教育・福祉団体の利用】

平成9(1997)年6月4日：穂別町立和泉小学校3・4  
年生（4名）

平成9(1997)年7月13日：白鳩会（母子会）（35  
名）

平成9(1997)年9月11日：穂別町立穂別中学校  
（33名）

【町外教育・福祉団体の利用】

平成9(1997)年5月：

9日：道立白老東高等学校（158名）

20日：恵庭市立恵庭中学校（159名）

平成9(1997)年6月：

6日：鶴川井目戸児童クラブ（25名）

26日：千歳市立千歳桜木小学校（91名）

26日：札幌市立札幌西野小学校（102名）

平成9(1997)年7月：

2日：札幌市立札幌屯田西小学校6年生（99  
名）

3日：厚真小・中学校障害児合同学習（10  
名）

7日：札幌市立手稲西小学校（125名）

10日：富良野市立布部中学校2年生（10名）

16日：白老町立白老中学校（126名）

16日：恵庭市立柏陽中学校（145名）

17日：苫小牧市立明野中学校（226名）

25日：室蘭ピノキオ幼稚園（79名）

平成9(1997)年8月：

26日：千歳市立北陽小学校（79名）

27日：鶴川町立田浦小学校（10名）

平成9(1997)年9月：

4日：札幌市立福井野小学校6年生（86名）

5日：幕別町立札内南小学校（78名）

11日：江別市立大麻東小学校6年生（96名）

13日：白老町緑丘保育園（78名）

15日：帯広柏葉高等学校（335名）

平成9(1997)年10月：

25日：浦河文化財少年団（29名）

平成9(1997)年11月：

11日：早来町立早来小学校（36人）

18日：門別町富川ひばり幼稚園（42人）

19日：門別町富川ひばり幼稚園（65人）

21日：門別町富川ひばり幼稚園（59人）

## ●運 営

### I おもなできごと

平成9(1997)年4月：

19日：北海道博物館協会胆振ブロック連絡協議会（苫小牧）

24日：北海道博物館協会学芸職員部会役員会（小樽）

平成9(1997)年5月：

16日：日胆地区博物館等連絡協議会設立総会（苫小牧）

平成9(1997)年6月：

12日～13日：第36回北海道博物館大会役員会・学芸職員部会役員会（名寄）

平成9(1997)年7月：

6日：ホベツアラキリュウ発掘20周年記念特別展／特別講演

10日～8月31日：ホベツアラキリュウ発掘20周年記念特別展（パネル展）

19日：野田雅之博士来館

24日：北海道博物館協会学芸職員部会役員会（札幌）

25日：加納 学芸員（三笠市立博物館）来館

平成9(1997)年8月：

4日～11日：道都大学学芸員実習生受入（2名）

6日：加藤久佳学芸員（千葉県立中央博物館）来館

14日：佐野晋一学芸員（福井県教育庁）来館

22日：安藤寿男博士（茨城大学）ほか2名来館

26日：文化財審議会ヒカリゴケ観察

27日～28日：平山 廉講師（帝京平成大学）来館

平成9(1997)年9月：

3日～4日：夕張シューパロダム周辺巡検

8日～9日：'97北海道化石サミット（沼田）参加

平成9(1997)年10月：

16日：北海道教育大学釧路校（巡検）

平成9(1997)年11月：

23日：ウタリ協会苫小牧支部収蔵品見学（9名）

平成10(1998)年1月：

28日：北海道博物館協会役員会（札幌）

平成10(1998)年2月：

28日：山田吾郎学芸員（北海道開拓記念館）来館

平成10(1998)年3月：

22日：千代川謙一氏（千歳化石会）ほか（3名）来館

25日：中川 元館長（斜里町立知床博物館）来館

### II 町外自治体などの視察

平成9(1997)年7月：

24日：女満別町議会議員視察（20名）

平成9(1997)年8月：

5日：愛別町議会職員視察（7名）

平成9(1997)年10月：

7日：三石町議会議員（19名）／土別市職員（15名）視察

8日：北海道職員・胆振支庁職員視察（3名）

17日：南幌町議会議員視察（10名）

21日：胆振東部7市町選管事務局職員協議会視察研修（8名）

### III 組 織



職員名簿（平成10(1998)年3月31日現在）

館 長 大 江 美津夫

庶務主幹 芦 谷 優 子

学芸主幹 地 徳 力

学 芸 員 川 上 源太郎

博物館協議会委員(平成10(1998)年3月31日現在)

会 長 荒 木 新太郎

副会長 小石川 武 美

委 員 石 倉 徳 益

委 員 久保田 瑞 真

委 員 谷 口 弘

委 員 藤 江 保 徳

委 員 村 上 隆

（平成10(1998)年7月31日まで）

#### IV 利用状況

##### 【常設展示観覧者】

平成9(1997)年4月～平成10(1998)年3月

月	一般	学生	計	開館日
4	875	290	1,165	26
5	2,796	1,557	4,353	26
6	1,032	573	1,605	24
7	2,273	1,320	3,593	31
8	3,591	1,919	5,510	31
9	1,472	1,098	2,570	22
10	1,180	333	1,513	25
11	502	167	669	23
12	54	2	56	22
1	39	19	58	20
2	64	13	77	22
3	191	86	277	24
計	14,069	7,377	21,446	297

(単位：人・日)

#### V 博物館使用料収入

区分	有料入館者数	使用料
一般	個人	12,384
	団体	1,685
学生	個人	4,618
	団体	2,759
合計	21,446	4,485,550

(単位：人・千円)

#### VI 平成9年度予算

費目	予算
報酬	46
共済費	254
賃金	2,977
報償費	464
旅費	662
需用費	8,792
役務費	732
委託料	3,126
使用料及び賃借料	1,078
原材料費	220
備品購入費	179

負担金補助及び交付金	165
博物館費合計	18,695

(単位：千円)

#### VII 利用案内

##### 【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分

##### 【休館日】

月曜日・祝日の翌日・毎月月末・年末年始  
(12月30日～1月6日)

##### 【観覧料】

	一般	*学生
個人	300円	100円
**団体	200円	50円

注：未就学児童は無料（要大人の付添い）

\* 学生：小・中学生・高校生

\*\*団体：10人以上

##### 【減免】

「（穂別町立）博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない（穂別町立博物館設置条例、第6条）」が「（穂別町）教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる（同条例、第7号）」。  
減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

穂別町立博物館施行規則 第6条条例第7条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。

（教育目的）

1) 穂別町立小学校及び中学校が教育計画のため入館する場合

（研究目的）

2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合

（福祉目的）

3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

(公益目的)

5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合



穂別町立博物館館報 第15号

平成9(1997)年度

発行 1998年7月30日

発行者 穂別町立博物館

〒054-0211

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

TEL (01454) 5-3141

印刷 穂別誠和学園

〒054-0364

北海道勇払郡穂別町字富内114番地

TEL (01454) 6-6014

